

# 預言者ジョセフ・スミスの殉教

## 預言者と教会への反発

1844年の6月には、教会に対する憎悪がますます激化しました。イリノイ州住民の中には、州から生徒たちを追い出そうと話す者もいれば、預言者の殺害を計画する者もいました。預言者に対する陰謀を企てる者の中には、信仰を失って教会を去っていった者もいました。1844年6月7日、大管長会の第二顧問として奉仕したウィリアム・ロー、およびその他の背教者が、ノーブー・エクスポジターと呼ばれた新聞の創刊号を出しました。預言者と教会に対する市民の感情をあおるため、彼らはジョセフ・スミスとその他教会の指導者を中傷するのにこの新聞を利用しました。ノーブー市長としての役割を果たしていたジョセフ・スミスとノーブー市議会の大多数は、この扇動的な新聞が市に対する集団暴力につながると認識しました。彼らは、この新聞を公衆の迷惑であると宣言し、ノーブーエクスポジター新聞社の破壊を命じました。

## 無実の罪に問われたジョセフとハイラム

「市長と市議会が取った措置（ノーブーエクスポジターの破壊）に対して、イリノイ州当局は、何の根拠もなく、騒乱罪の容疑で預言者と兄のハイラム、およびその他のノーブー市会議員を告発した。イリノイ州知事のトーマス・フォードは、彼らに郡庁所在地であるイリノイ州カーセージで裁判を受けるように命じ、また彼らの保護を約束した。ジョセフは、もしカーセージに赴いたら、脅しをかけている暴徒たちによって自分の命が大きな危機にさらされることを知っていた。

暴徒が求めているのは自分たちだけであると考えたジョセフとハイラムは、命を守るために西部へ逃れる決意をした。6月23日、二人はミシシッピ川を渡ったが、同日、ノーブーからやって来た兄弟たちが預言者を探し出し、もし預言者がカーセージの当局に出頭しなければ、軍隊が市に侵攻して来るだろうと告げた。預言者は政府役人と暴徒の両方をなだめることができると願い、出頭することに同意した。6月24日、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは家族に別れを告げると、他のノーブー市議員たちとともに馬でカーセージに向かい、翌日、カーセージにある郡当局に任意出頭した。兄弟たちは当初の容疑に関して保釈金を払って保釈されたが、その後、イリノイ州に対する反逆罪の容疑で不当に逮捕され、審理を待つためにカーセージの監獄に勾留された。当時十二使徒の中で伝道に赴いていなかったジョン・テラー長老とウィラード・リチャーズ長老が、志願して二人に加わった。」（『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』529—530）

## カーセージの監獄での殉教

1844年6月27日、訪問者がジョセフに拳銃を渡しました。暴徒が預言者と他の男たちが拘束されている部屋に入ろうとしたとき、ハイラムは部屋にいる皆を守ろうとして銃殺されました。ジョセフはドアに飛びつき、廊下に向かって銃を撃とうとドアの枠の後ろに手を回しました。6弾のうち3弾のみが発砲され、暴徒の何人かが怪我を負いました。暴徒は次に半分閉じられたドアの隙間に銃をこじ入れましたが、ジョン・テラーは杖を彼らの銃の砲身に叩きつけました。

出入り口での対立が激化するにつれ、ジョン・テラーは窓から脱出を試みました。ジョンが窓から飛び出そうとしたとき、出入り口から太ももを撃たれ、外側にいた何者かにも銃弾を受けました。床に倒れたジョンは、窓の横にあったベッドの下に潜り込もうとしましたが、さらに3発の銃弾で重傷を負いました。一方、出入り口から銃が差し込まれ、ウィラード・リチャーズがそれらに杖で対抗し始めました。

ジョセフ・スミスは同じ窓から脱出しようとしていました。ウィラード・リチャーズがドアにいる暴徒をかわそうとしている間、預言者は開いた窓に飛びつきました。そのとき、ジョセフは監獄の内外からの銃弾に撃たれ、「おお、わたしの神、主よ」と叫びながら窓から地面に落ちました。監獄の中にいた暴徒たちは、ジョセフが死んだことを確認するために外に飛び出しました。カーセージに向かっていた教会員はいませんでした。誰かが「モルモンが来るぞ!」と叫び、暴徒たちは全員逃げました。

## 預言者ジョセフ・スミスへの賛辞

十二使徒定員会のダリン・H・オクス長老は次のように語っています。



「ジョセフを最もよく知り、教会の指導的立場にあって彼に最も近かった人たちは、彼を預言者として愛し、支持しました。兄ハイラムはジョセフとともに死ぬことを選びました。殺害されたとき一緒にいたジョン・テラーは、こう語っています。『わたしは神と天使と人々の前で証する。彼は善良で高潔な徳高い人物であり、……私的にも公的にも人格に一点のやましきもなく、神の僕として生き、死んでいった。』（The Gospel Kingdom [1987年], 355。教義と聖約 35:3も参照）ブリガム・ヤングはこう明言しています。『この地上に生を受けている人の中でわたし以上に（ジョセ

フ) のことを知っている人はいない。わたしは声を大にしてこう言う。イエス・キリストを除いて彼ほど立派な人物は存在しなかったし、これからも存在することはないで

あろう。』〔Discourses of Brigham Young, ジョン・A・ウイツォー選 (1954 年), 459〕(「ジョセフ人として預言者として」『聖徒の道』1996 年 7 月号, 84)

